

授業科目名 (英文表記)	地域づくりの理論と実践 ※開講できない場合があります。下記を参照 (Strategic regional/community management)		
単位数	2 (学部生のみ)【通年】	授業形態	講義、実習
担当教員	藤田 武弘		
実施場所	秋津野ガルテン(和歌山県田辺市上秋津 4558-8)		
実施日・時間	下記「授業計画」のとおり	区 分	学部開放科目
【講義概要】			
<p>少子高齢化が進展する日本では、都市と農村との格差が拡大し、農村では“限界集落”が増加するなどの問題が起こっている。しかし、その一方で食の土台となる第一次産業の営みや農山漁村での暮らしに対する都市住民の関心も高まっている。そして、農村においても「地域資源の活用」「農工商連携」「都市農村交流」など様々な取り組みが進められている。なかでも、都市農村交流における「鏡効果」の存在は、農山村再生の手法としても大いに注目を集めている。近年、総務省がふるさとの地域づくりを支える多様な担い手として提起した「関係人口(長期的な定住人口でも短期的な流動人口でもなく、当該地域や住民と多様に関わる者)」づくりは、まさにこのような交流を土台に拡がりをみせるものと考えられる。</p> <p>本講座は、農業・農村の現状に対する「当事者意識」に裏付けられた深い共感と問題関心を有し、且つ新たな地域づくりの担い手として注目される「関係人口」を創出する上でのコーディネーターとしての役割を果たしうるホスピタリティ豊かな地域づくり人材の育成を目的として開講する。</p>			
【授業計画 (通年)】※授業計画については、詳細なスケジュールが決まりしだい、ホームページ (南紀熊野サテライト: www.wakayama-u.ac.jp/naki-kumano) 等で公表いたします。			
<p>〈前期〉</p> <p><視座 1 : > (土日開講) (土曜 2 講義+日曜 1 講義)</p> <p><視座 2 : > (土日開講) (土曜 2 講義+日曜 1 講義)</p>			
<p>〈後期〉</p> <p><視座 3 : > (土日開講) (土曜 2 講義+日曜 1 講義)</p> <p><視座 4 : > (土日開講) (土曜 2 講義+日曜 1 講義)</p> <p><視座 5 : > (土日開講) (土曜 2 講義+日曜 1 講義)</p>			
【到達目標】 本学では「域学連携」の観点に基づく地域での多様な実践型教育・研究が行われている。本講義の受講者が、それら地域での実践的な学びを自ら深めていくことを期待したい。なお、本講義は江頭ホスピタリティ事業振興財団の「寄付講義」として開講されることから、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響等の教育効果の検証を行う予定である。			
【教科書・教材】 毎回レジュメ・資料を配布する。			
【参考書】			
<ul style="list-style-type: none"> ○橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編『都市と農村—交流から協働へ—』日本経済評論社、2011 年。 ○藻谷浩介・NHK 広島取材班『里山資本主義』角川書店、2013 年。 ○岸上光克『廃校活用による農山村再生』J C 総研ブックレット、筑波書房、2015 年。 ○小田切徳美『農山村は消滅しない』岩波新書、2015 年。 ○藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房、2018 年。 			
【授業時間外学習】 本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行うこと。さらに、授業内容に関連する課題に調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求める。			
【履修上の注意・メッセージ】 地域の再生は、一朝一夕に叶うものではない。常に「現場(実態社会)が先生」であるという謙虚さと熱意をもって、社会人などの多世代の人々とともに地域の悩みを共有しながら根気強く問題解決に取り組もうとする受講生を歓迎する。なお、週末の土曜日開催(土曜日 2 講/日曜日 1 講とまとめ)というスタイルの講義以外に、オプションで関連するフィールドワーク(現地視察や農家民泊・農作業研修など)が提供されるので、これにも積極的に参加してほしい。			
※この講義は開講を予定していますが、寄付講義(外部の寄付金に基づき運営される講義)であるため、その寄付金について、交付が否かの通知があるのが 1 月末頃の見込みですので、それを受けて開講するかしないか、正式な決定については、あらためてホームページ(南紀熊野サテライト: www.wakayama-u.ac.jp/naki-kumano) 等で公表いたします。(2 月初旬~中旬)			
⇒ この講義を受講したい方は、開講の有無を確認後、申し込みを行うようご注意ください。			

